

## 〈解答〉

- ① 1 ア  
2 エ  
3 大宰府  
4 ア→ウ→イ (完答)  
5 武士団 (漢字3字指定)  
6 ①: 関白 ②: 院政  
7 ア

配点 ① 4, 5 は各2点, 他は各1点 10点満点

## 〈解説〉

- ① 1 百済の聖明王が、欽明天皇のときに仏像、経典を伝えたとき、その年代については538年とする説と552年とする説がある。イは57年、ウは663年、エは239年のできごとである。
- 2 壬申の乱は、天智天皇の弟の大海人皇子と、天智天皇の子の大友皇子が皇位を争った戦乱である。大海人皇子が大友皇子を破って、天武天皇として即位した。
- 3 天武天皇の死後、事業は皇后であった持統天皇に引き継がれ、藤原京が完成した。701年、唐の律令をまねて大宝律令がつくられ、律令という法律に基づいて政治が行われることになった。このような国家を律令国家という。地方は国・郡・里に分けられ、中央から派遣された国司が、郡司に任命された地方豪族や里長を監督した。大宰府は、九州の行政や防備、外交の仕事にあたった役所で、現在の福岡県太宰府市に遺跡が残っている。
- 4 アは743年、ウは801年、イは894年のできごとである。
- 5 10世紀のころに各地におこった武士は、一族を中心とした小さなまとまりから、有力な武士を頭にしだいに大きくまとまるようになった。桓武天皇の子孫の平氏と、清和天皇の流れをくむ源氏が大きな武士団をつくった。
- 6 藤原氏は、自分の娘を天皇のきさきとし、生まれた子どもを天皇にして、天皇が幼いときにはその政治を代行する摂政となり、成人後は後見役として天皇を補佐する関白になった。この政治を摂関政治といい、藤原道長とその子頼通のころに最も栄えた。11世紀中ごろ、藤原氏と血縁関係がうすい後三条天皇が位につき、天皇に政治の実権を取りもどそうとした。次の白河天皇は、位を幼い皇子にゆずって上皇となっても、摂政や関白をおさえて政治を行い続けた。上皇やその住まいである御所のことを「院」と呼んだので、その政治を院政という。
- 7 源頼朝の命を受けた源義経は、木曾 (長野県) の源義仲によって都から追い出された平氏を西国に追いつめ、1185年に壇ノ浦 (山口県) で平氏を滅ぼした。